

第 32 回勝山市地域公共交通会議 会議録要旨（平成 30 年度 第 2 回）

1.開催日時：平成 31 年 1 月 15 日（火）14 時 30 分～15 時 30 分

2.開催場所：勝山市民会館 3 階 第 1 会議室

3.出席委員：敬称略

委員	福井大学大学院 特命教授	川上 洋司（座長）
	国土交通省中部運輸局福井運輸支局 首席運輸企画専門官（輸送・監査担当）	畑 憲治
	国土交通省中部運輸局福井運輸支局 運輸企画専門官（輸送・監査担当）	山本 一途
	福井県総合政策部 交通まちづくり課長	西野 光
	奥越土木事務所 勝山維持管理課長	鈴木 常仁
	勝山警察署 交通課長	吉田 真人
	勝山市区長連合会 会長	杉平 信夫
	勝山市高齢者連合会 代表	松下 文男
	勝山交通株式会社 代表取締役社長	竹田 幸弘
	大福交通有限会社 代表取締役	中村 雅彦
	勝山市副市長	松村 誠一（会長）
	勝山市教育部長	平沢 浩一郎
	勝山市建設部長	酒井 与志弘 （代理 山本 典男）
	勝山市商工観光部長	水上 実喜夫 （代理 米村 衛）
	勝山市健康福祉部長	松井 隆治 （代理 櫻井 陽子）
	勝山市市民生活部長	伊藤 寿康
事務局	勝山市市民生活部市民・環境課課長	河野 誠
	主任	森 弘章
	主査	石田 剛士

4.欠席委員：えちぜん鉄道株式会社 営業開発部 部長 佐々木 大二郎

5.傍聴人の数：0 人

6.議題

- (1) 各路線の課題、ニーズ等について

7.会議資料

- 資料 1 各路線の課題、ニーズ等について
資料 2 勝山市地域公共交通会議委員名簿
資料 3 勝山市地域公共交通会議座席表

8.議事等内容

- (1) 各路線の課題、ニーズ等について

- 座長 運行事業者は、各路線の課題やニーズ等について何か意見があるか。
- 委員 市街地路線の課題はいっぱいある。市街地南部からバスに乗車する人が市街地中部へ向かうときや、その逆の場合も乗り継ぎが必要となるため支障が出ている。
生活路線としてぐるりん中部方面を利用する場合、恐竜博物館を経由すると 15 分ほど時間がかかる。
ダイヤやルートを見直す場合は、大幅に手を加えないといけない。例えば、ぐるりん中部方面と南部方面を統合して、山手線のような外回りや内回りにしてはどうか。8 の字にする方法もあるが、ルートが長くなり時間がかかる。
- 委員 荒土・野向予約便の勝山中部中学校の部活対応について、現在、勝山北部中学生は 18 時にバスに乗りたいが、20 分ほど待ってもらっている状況である。勝山北部中学生は 3~4 人利用している。勝山中部中学校の到着時間を改善すると、勝山北部中学校の到着時間が悪くなる。現在の時刻が精いっぱいだと思う。
- 会長 市街地路線について、将来的に内回り、外回りは効果的だと思う。
利用者が少ない停留所は、時間を短縮するため廃止する必要がある。
ぐるりん中部方面は、恐竜博物館を外すと、時間を短縮することができるが、恐竜博物館から市街地に向かうバスが無くなってしまい、勝山駅で乗り継ぎが必要になる。恐竜博物館直通バスは、市街地に停留所を設置することは可能か。今後検討が必要になる。
- 委員 恐竜博物館直通バスは乗合バスのため、停留所を新設することは可能だが、電車との接続をよく考える必要がある。
生活路線と観光路線の混在について、敦賀市が分離させた事例があるが、効率が上がったと聞いている。現在の路線について、これまでの経緯も大切である。今後議論が必要である。
現在の市街地路線は一周約 30 分かかっているが、これは平均的である。

乗車時間がかかることについては、利用者に理解してもらうことも必要である。利便性を良くするために便数を増やすことも考えられるが、財政的課題もある。すべてのニーズに応えるのは難しいと思う。

座長 ニーズをしっかりと吸い上げるのも大切だが、経験上、すべてを叶えるのは難しい。バスの投入量を増やせば（増便）利便性は向上するが、予算的に厳しい。利用者にある程度理解してもらう必要がある。

路線を大幅に変えると、利用者の生活リズムを相当変えてもらう必要がある。制約条件（生活利用や観光利用、ルート、時間帯など）をどこに置くか、また、他の自治体の実績を踏まえて慎重な議論が必要。

大野市では、8の字の循環でバスを運行しているが、目的地が市街地にある程度まとまっている。また、生活路線と観光路線を切り離した敦賀市も、主要な観光地が市街地にまとまっている。勝山市の場合は、勝山駅は少し離れているし、主要な観光地（恐竜博物館および白山平泉寺）も市街地から両極端に離れている。

会議資料には、市民と観光客の両者からクレームがあると記載されているが、観光客からも使いづらいという意見があるのか。

委員 観光客からのクレームはない。恐竜博物館から市街地へ向かう観光客は、ぐるりん中部方面を活用している。

事務局 資料の記載誤りです。

座長 バス路線を改正していくことと、現在のダイヤやルートで定着していくことだが、クレームが出てくるのは理解するが、改正することがすべて正しいとは言えないこともある。

委員 利用者から、ぐるりん中部方面に乗車して福井勝山総合病院へ行くのに、ぐるっと回らないといけない（遠回り）という声がある。相当改善する必要があると思う。

座長 バスの投入量を増やせば済む話だが、予算的に厳しい。これは勝山市だけではなく、他の自治体も同様である。

委員 前回の会議でも発言したが、平成27年に「昭和町3丁目」停留所を新設したが、ほとんど利用者がいない。この停留所をそのまま残しておくのはどうかと思う。

委員 ぐるりん南部方面が便によって通るルートや停留所が違うことについて、過去の経緯をしっかりと把握しておく必要がある。

委員 ぐるりん南部方面のルートは、京福バス勝山大野線と平泉寺・猪野瀬予約便と輻輳しているため、便によってルートを変えた経緯がある。

座長 回送を無くすのも理由の一つだと思う。

この議題についてはこれでよろしいか。

一同 承認